

ちば里山新聞

(第 47 号)
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦 2 号 580-148
 ☎ 0438-62-8895
 題 字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの事業委託を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

C.W. ニコル氏、若者に語る

見守り、手入れしてようやく森は育つ

アファンの森づくりに学ぶ

長野県黒姫の里山でその再生に取り組んでいる C.W. ニコル氏による講演会が、6月25日フクラシア東京ステーションで開催されました。これは「ちばの里山 LIFE 体験交流事業」の一環として千葉県が主催し、ちば里山センターが企画・運営を担当したものです。(協力・早稲田大学学生環境 NPO 環境ドリノグス)

「信州のアカオニです。」とマイクに向かったニコル氏は、「日本は樹木の種類が大変に多い」「雑木(ざつぼく)という木はない」「木が元気になると動物が戻る」「動物が菌や植物を繁殖させる」「美しい森があれば人が訪ねてくる」「人間も自然の一部」「本当の原生林は明るく、どんな薬よりも癒しになる」…など、日々の黒姫の森での活動に裏打ちされた貴重な経験談を熱く語り、「豊かな森は日本の誇りであり、大切にすべき」と締めくくりました。

また、アファンの森では、自然に親しむ機会の少ない身体に障害のある子ども、虐待や育児放棄で心に傷を負った子どもを森に招いて子どもたちの心の成長を見つめる活動を行っていること、さらには東日本大震災の被害を受けた東北の森を再生する支援など、さまざまな活動を展開していることを報告しました。講演会には学生を中心に若い聴講者が多く、活発な質疑が行われるなど盛り上がりを見せました。



平成 28 年度地方創生加速化交付金事業

ちばの里山づくり体験モニターツアー参加者募集中

① 日帰り体験バスツアー 8月11日(木・祝日 山の日)

② 宿泊体験バスツアー 9月24日(土)～25日(日)

※ ①、②とも東京駅集合・解散になります。(行先:君津市鹿野山周辺)

◆参加資格: 里山の手入れ、里山地域での自然と共存した暮らしに興味のある学生対象

◆参加費: 無料 ◆定員: 各30名(申し込み多数の場合は抽選となります)

◆応募方法: 氏名、学校名、住所、電話番号、参加希望コース(①or②、両方)を必ず明記の上、ちば里山センターまでメールでお申込み下さい。 ※ 詳細は、HP をご覧下さい。 <http://www.chiba-satoyama.net>

